

矢板市 生活支援体制整備事業 第1回地域づくり勉強会を開催しました

矢板市社会福祉協議会は、矢板市から生活支援体制整備事業の委託を受け、高齢者の方がいつまでも住み慣れた地域で元気に過ごすことができるよう、住民の方が主体となって助け合い、支え合いができるような地域づくりに取り組んでいます。



泉地区 11月21日 参加21名



片岡地区 11月28日 参加39名



矢板地区 11月30日 参加53名

1 「矢板市の現状と取組みについて」 矢板市高齢対策課 高橋課長補佐

- ・平成30年10月1日現在 人口 32,812人 (4年前より 1,353人減)
- ・ 同上 高齢化率 30.9% (4年前より 4.5%増)
- ・ 同上 要介護認定者1,396人(4年前より 274人増)



矢板市においても

- ・少子高齢化による介護の担い手の減少
- ・介護保険サービスを必要とする高齢者の増加
- ・介護保険財政難

今後課題となる



地域包括ケアシステム(住み慣れた地域で自分らしい暮らしを継続するための仕組み)が必要となる。

平成27年度介護保険法改正により、「生活支援体制整備事業」を全国的に実施。

矢板市では社会福祉協議会に事業委託。今後、第1層SC(生活支援コーディネーター)が中心となり、各地区に協議体を設置していく。

2 「住み慣れた”やいた”に、いつまでも暮らし続ける～助け合い・支え合いの地域づくりに向けて～」 社会福祉協議会 第1層SC(生活支援コーディネーター) 只木光雄

”生活支援体制整備事業・協議体のイメージについて”

「地域づくり」は ⇒ 高齢者の社会参加の促進
地域における支え合い活動の充実、強化
その地域ならではの、支え合いの仕組みづくり
を行っていくものです。

支え合いのある地域づくりを進めて行くために、矢板市では中学校区(泉・矢板・片岡地区)に、第2層協議体を設置していきます。

第2層協議体の構成メンバーは、区長、民生委員、自治公民館、地域住民、サロン代表、シニアクラブ、地域包括支援センター、介護事業所などで、定期的に地域の困りごとなどの情報を共有し、話し合いを行い、自分たちが無理なくできる範囲でやっていけることを考えていきます。

3 「助け合い体験ゲーム」

ご近所での助け合いをワークショップによるゲーム感覚で体験いただきました。

「助けてほしい」と声をあげることの難しさと大切さ、ちょっとしたことが誰かの助けになり感謝されるということ、助け合いが成立(助けてほしい人が助けてくれる人を見つけた時)したら、握手を交わしてもらい、グループ内で拍手をしながら行いました。それぞれのグループから笑い声も聞こえて、とても和やかな良い雰囲気でゲームを行うことができました。



泉 地区(泉公民館)



片岡地区(片岡公民館)

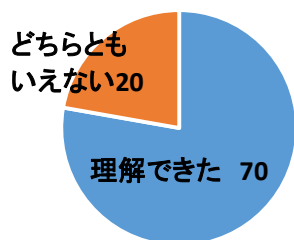


矢板地区(矢板公民館)

アンケート結果

参加者113名 アンケート回答者 90名

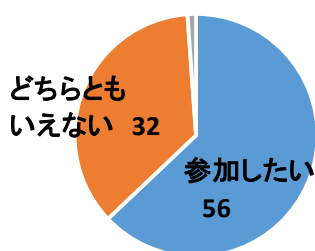
勉強会に参加して



【アンケート自由意見】

- 助け合い体験ゲームを通して、支援者がいるという安心感を強く感じた。システムとしてそのような組織が出来ればと思う。
- 助けて欲しいということを手を挙げてもらうことの大切さを感じている。
- 助けを求めている方々の手伝いをしたい。
- 高齢者支援、支え合いは、行政区でも大きな課題です。実行できる対策案を知りたい。
- 地域貢献したい。
- 参加者等の交流を多くしたい。
- もっと多くの人に参加してもらいたい。
- いろいろな立場の方と交流ができ、思いが新たになり、他の方の情報を少しずつ得て、手助けができればと思う。

第2回勉強会の参加



第1回の勉強会では、矢板市の現状と取組みと生活支援体制整備事業と協議体の説明の後、「助け合い体験ゲーム」を行いました。各グループをそれぞれの地域として考えた場合、ゲームの中で「手伝ってくれる人がいなかったカード」の項目は、その地域では解決できない問題(地域の課題)となります。

そうした課題がどの地域に生じているか？

他にどんな課題があるか？

どの地域にどんな課題があるか？

といった情報を協議体で共有し、そうした地域の課題を解決するためにはどうしたら良いか？を話し合いながら、助け合い・支え合いのある「地域づくり」を地域住民の皆さんと一緒に進めていきたいと考えています。

